

カザフスタン共和国における日本学の開発

クアニシベック・ジャンナ

L.N.グミリョフ名称ユーラシア国立大学

要旨：本発表の目的はカザフスタン共和国における日本学の発展を紹介することである。本発表は「日本学入門」という新科目のシラバスを作成する際に経験したことに基づいている。

Abstract: The purpose of the report is to consider the development of Japanese studies in Kazakhstan. There was a new subject "Introduction to Japanese Studies" and this report was based on experience at creation of a syllabus.

はじめに

1991年に独立したカザフスタンは世界のさまざまな国との国交を樹立しはじめた。その際、多くの外国語人材の育成が必要になった。1992年にアル・ファラビ記念カザフ国立大学東洋学部中国語学科に日本語コースが設置されたのが、カザフスタン共和国における本格的な日本語教育のはじまりといえる。カザフスタンの日本学科の創設者と日本語の最初の教師はカマルディノフ氏である。現在、カマルディノフ氏は外務次官である。

日本学とは日本の国語、民俗学、歴史、文化、技術、宗教、政治、経済、哲学などを学ぶ複雑な分野である。本発表ではカザフスタン共和国における日本学の発展を紹介する。

本論

「日本学入門」という科目のシラバスに最初のテーマは「カザフスタンの歴史と文化における日本。カザフスタンにおける日本語教育の過程」である。また、以下のようなテーマがある：

1. カザフスタンにおける日本について最初の情報。日本へ旅行した最初のカザフ人
2. カザフスタンにおける日本学。カザフスタンにおける日本語教育の歴史。日本学者を養成するための日本語教育。アル・ファラビ記念カザフ国立大学、アブライ・ハン記念カザフ国際関係・外国語大学とユーラシア国立大学における日本学、カザフスタン日本人材開発センターにおける日本語教育
3. アルマティとアスタナ以外におけるカザフスタンの都市における日本語教育
4. 日本の伝統文化（折り紙、生け花、書道、茶道など）と現代文化（アニメ、漫画、ドラマなど）の研究
5. 日本・カザフスタンの外交関係の歴史研究
6. 日本についての最初の情報。ポルトガルとスペインの宣教師。欧州諸国、米国における日本研究
7. ロシア連邦における日本研究

8. 第二次世界大戦後の世界。日本研究の発展
9. 現代世界の日本研究など

カザフスタンにおける日本の最初の情報は 20 世紀に得られたと言われている。「アラシュオルダ」党は 1917 年に組織され、議長はアリハン・ボケイハノフであった。ボケイハノフ氏は日本の歴史、文化、政治、経済に関心があったということが知られている。

カザフスタンでは日本の伝統文化に対する関心が高い。また、自動車やロボットなどハイテク技術は若者にとって憧れであり、近年では、日本学習の動機の 1 つとなっている。これまでは旧首都のアルマティにおいて、日本教育が盛んであったが、近年は新首都のアスタナでも日本語教育が盛んになり、アスタナとアルマティの日本語教育機関はお互いに連携するようになった。さらに、地方都市においても自主的に日本語を学習する例がみられる。

高等教育機関においては、2007 年 9 月にカザフ国立大学において、日本語専攻の大学院修士課程が設立され、2014 年までに約 20 名の修了者を出している。2012 年度には日本学科東洋歴史コースから 1 名の修士課程への進学者が認められた。またこれ以外にも、日本の大学の修士課程、博士課程へ進学する者もいる。初等・中等教育においては、1996 年にアルマティ第 2 学校で日本語教育が開始され、1998 年にはアルマティ第 12、123 学校、及びジャンブール第 45 学校、2002 年からは第 58 中学校、第 120 言語ギムナジウムでも開始されたが、2013 年に、専門家が開発した学習プログラムの影響で教育科学省から初等・中等教育の日本語コース閉鎖が命じられた。そのため、現在、初等・中等教育では日本語は教えられていない。

また、現在、日本語専攻コースを持つ大学は、アル・ファラビカザフ記念国立大学東洋学部極東学科、アブライ・ハン記念カザフ国際関係・外国語大学・東洋学部極東言語学科、L.N.グミリョフ記念ユーラシア国立大学国際関係学部・東洋学科の 3 校である。その他、カザフ外国語大学、ユーラシア国立大学の 2 校で第二外国語として日本語を選択することができる。2009 年度までカザフ経営経済戦略大学 (KIMEP) とアバイ記念カザフ国立教育大学においても日本語教育が行われていたが、現在は行われていない。また、第二外国語コースがあったカザフ国立大学国際関係部においても 2013 年度夏に日本語コースが開講された。ナザルバエフ大学においても日本人教員により「日本クラブ」が組織され、学生 90 名ほどに対して日本語教育が行われていたが、この日本人教員が 8 月に日本へ帰国してしまったため、今後の動向は不明である。

参考文献

1. Султан Хан Аккулы (2016) Казахстан может стать второй Японией. *ZEBRA TODAY*.
<https://zebra.today/i388> (最終閲覧日 2017 年 1 月 5 日)
2. 「世界の日本語教育の現場から (国際交流基金日本語専門家レポート) カザフ民族大学での活動」
<https://www.jpj.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/touou/kazakhstan/2004/report02.html> (最終閲覧日 2017 年 1 月 10 日)
3. 「カザフスタン (2014 年度) 日本語教育 国・地域別情報」『海外の日本語教育の現状 2012 年度日本語教育機関調査より概要』

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/kazakhstan.html> (最終閲覧日
2017年1月10日)